

視覚情報を用いた和歌教材の開発

—古今集 169 番歌を題材として—

Development of Teaching Materials Using Visual Information in Elementary Schools:
The Subject of the 169th Waka in the Kokinshu

橋本 美香*1

要 旨

小学校では、各教科の学習指導要領の中に、障害のある児童などについて、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが求められている。本稿では、国語科の伝統的な言語文化に関する事項について、TEACCHの手法により、中学年で導入される『古今和歌集』169番歌の教材開発を行うことを目的とする。教材開発にあたって、自閉スペクトラム症の長所を生かし「明示的学習」を行うこと、「視覚的情報」を取り入れること、「細部への注意」を払うこと、「限定的な興味」に基づいた指導を行うことができるようにすることを目指した。視覚情報に重点を置いたこの教材開発によって、通常学級における自閉スペクトラム症を含むすべての児童が和歌の世界とともに学び、理解することが可能になると考える。また、小学校高学年さらには高等学校へ向けて、日本の伝統文化にさらに親しみ、知識と愛着を深めることができると考える。

Keywords : 伝統的な言語文化, TEACCH, 和歌, 古典教育, ICT
Traditional Language and Culture, TEACCH, Waka, Classical Education, ICT

1. 背景

学習指導要領の改訂により、現在、小・中学校の国語科において「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が設置されている。この中で、「ア 伝統的な言語文化に関する事項」では、「易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする」ことが示されている¹⁾。これにより、和歌教材が取り上げられ、和歌の導入として、『古今集』・『金葉集』・『新古今和歌集』などの勅撰和歌集が取り上げられている。しかし、学習指導要領にある「情景を思い浮かべる」ためには、和歌のリズムを感じ取り音読や暗唱をするだけでは、情景を想起させることは難しいと考えられる。

本稿では、国語科の目標である「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」ことについて、特に「思考力や想像力及び言語感覚」を涵養するために必要な事項である「伝統的な言語文化」を取り上げる。これにより、文語調の短歌や俳句の導入時期である中学年において、児童の関心を深め、国語を尊重する態度を育てる

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

和歌導入の教材について検討したい。

2. 小学校における和歌指導

2.1 使用題材

小学校中学年の和歌の導入について、以下の題材についての教材を検討していく。

教科名：国語（3年下 光村図書 P62-63）

単元名：声に出して楽しもう「短歌を楽しもう」

和歌：秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

（古今集・秋上・169・藤原敏行朝臣）

現代語訳：秋が来たと明らかに見える実態はないのですが、風の音がこれまでの夏とは違うので、気づかされるのです。

2.2 題材選択の目的

本稿で題材として取り上げているのは、学習指導要領の「我が国の言語文化に関する事項」の「第3学年および第4学年」の項目の「ア易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと」に対応するものである¹⁾。

「声に出して楽しもう」の単元は、光村図書において国語の指導第3学年以降の4年間に位置付けられている豊富な古典や文語文を含む単元であり、音読、暗唱を通して、日本の伝統文化にさらに親しみ、知識と愛着を深めることになるものとして設定されている²⁾。また、この「声に出して楽しもう『短歌を楽しもう』」の教材は、光村図書の国語テキストにおける和歌の導入部分であり、第3学年の国語上で配置されている「俳句を楽しもう」とともに、小学校における短歌・俳句、古文・漢文、文語調の導入ともなっている。

2.3 小学校における和歌指導の要点

小学校のどの国語科の教科書でも、3、4年生で俳句や和歌を用いた音読活動が目指されている。そのうち和歌教材としては、季節や自然を読んだ百人一首歌がほとんどであり、カルタ遊びも行えるなど、楽しみながら学習に取り組める点が中学年の和歌教材に選ばれている理由であると考えられている。また、3、4年生では、伝統的な季節感を感じる事が目指されている³⁾。和歌の音読の必要性について、和歌が「音への志向」性を持つことが指摘されており、和歌が「声の文化」の所産であったことから、和歌の特徴について体感する上で意味のある学習とされている⁴⁾。

小学校の古典学習についての調査によれば、「古典の学習でやってみたいこと」について、「昔の人の考えや暮らしなどを知る」、「昔の言葉の意味や使い方を考える」、「現代語訳をする」、「古典の情報を聞く」の回答が、「音読をする」と答えた人数を上回っている⁵⁾。このことから、単に音読だけに注目をした授業展開は、児童の古典に対する興味に対応しているとは言えず、言語文化が目指している「学習意欲」の向上に繋がらないと考えられる。これまでにも、限りある指導時数の中で「古典に親しむ」授業を行うには、児童の実態に即した指導の工夫が重要であるとされている⁶⁾。さらに、歴史について小学校での調査におい

て興味を持つ契機となったのは、漫画が非常に多いという結果が示されている⁷⁾。児童の実態に即した指導の一つとして、漫画などの視覚的な教材が鍵となるのではないだろうか。

さらに、今回取り上げる藤原敏行の「秋来ぬと」の歌の所収されている『古今和歌集』は、延喜 5 (905) 年に奏上された勅撰和歌集として、我が国で最初に編纂されたものである。現在も宮内庁で行われている「歌会始」はその流れを汲むものであり⁸⁾、我が国の言語文化としては、非常に重要なものである。また、和歌の分類として、春・夏・秋・冬・賀・離別・羈旅・物名・恋・哀傷・雑・長歌・旋頭歌・俳諧歌・大歌所御、歌神遊びの歌、東歌と配列されている。中でも本稿で取り上げている「秋来ぬと」の歌は、秋上の巻頭にあり、当時の人々の秋の気配の感じ方を映し出しているものである。そのため、このように和歌の伝統を理解させるような和歌導入の教材開発が求められると考える。

2.4 小学校における指導の工夫の必要性

教科教育では、「学びの過程に於いて考えられる困難さに対する指導の工夫を計画的、組織的に行うこと」が明示されている⁹⁾。通常の学級における特別支援教育について、平成 15 年 3 月の文部科学省調査研究協力者会議の「今後の特別支援の在り方について(最終報告)」では、特別支援教育について「従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD, ADHD, 高機能自閉症スペクトラム障害を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、持てる力を強め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである」と定義されている¹⁰⁾。このように、自閉スペクトラム症の児童や生徒が直面する学びの過程における課題についても指摘されている。そのため、教科教育は、自閉スペクトラム症の児童や生徒を含む教室のすべての子どもに「わかった」、「できた」を実現しようとするものであるとされ、「特別支援教育と教科教育の融合」領域である授業のユニバーサルデザインが求められている¹¹⁾。

2.5 古今和歌集 169 番歌を取り上げた先行研究

古今和歌集 169 番歌はすでに、通常学級の小学校 6 年生の教材研究として、報告が見られる¹²⁾。そこでは、秋を感じる時はどのような時か、作者の気持ちになって状況を思い浮かべて音読し、グループでの発表へとつなげている。音読については、読み上げるスピード、強く読む、ゆっくり読むなどの指導もみられる¹³⁾。また、この歌は、高等学校でも取り上げられている¹⁴⁾。そこでも歌の区切れやリズムに注意しながら、声に出してみることで、どのような情景や心情が読まれているかが問われている。この歌はすべての小学校国語科の教科書で採用されており、季節の感覚をとらえた名歌であるとともに、通釈のしやすさがその理由と考えられている¹⁵⁾。しかし、ユニバーサルデザインという視点を含む授業の報告は、ほとんど見られない。

3. 自閉スペクトラム症の強みを生かした教材研究

3.1 TEACCHの手法の要点

先述の通り、ユニバーサルデザインにおける授業改善については、LD、ADHD、自閉スペクトラム症の特徴への支援などが含まれる。本稿では、中でも自閉スペクトラム症に焦点を当てて、TEACCHの手法を用いた和歌の教材について検討を行う。

自閉スペクトラム症の児童が直面する学びの過程における課題は、対人関係や状況理解、文脈理解、心情理解などである。また、特定のものや、スケジュール、やり方などに固執するため、「関心のムラ」につながるとされる。特に、イメージをすることに課題があり、抽象的思考が難しい、複数の平行作業の困難さも指摘されている。そのため、教科学習におけるTEACCHでは「暗黙的な学習の苦手さに対処する」、「注意集中への違いに対処する」、「実行機能の苦手さに対処する」ことが必要であるとされている。一方で、自閉スペクトラム症は、「明示的学習」・「視覚的情報の優位性」・「細部への注意」・「限定的な興味」が強みであるとされている¹²⁾。

3.2 授業の展開

授業展開は、以下の順序で行うものとする。

1. 提示された和歌をまず読んでみる。その上で、「さやか」、「おどろかれぬる」の意味の説明を聞く。
2. 和歌のリズム（5. 7. 5. 7. 7）について説明を聞く。
3. 目には見えない秋を感じるものとはどのようなものかを考える。
秋の画像を10枚提示し、和歌のイメージに近いものを一人一枚ずつ選ぶ。画像は、夕暮れ、朝、昼、夜など、時間帯がちがうものを用意する（図1 初秋の画像）。
4. ワークシートに記入する
5. なぜその写真を選んだのかについて発表する。
6. メモを取りながら、他の人の発表を聞く。
7. メモを見ながら他の人の発表を聞いた感想をワークシートに記入する

「3. 目には見えない秋を感じるものとはどのようなものかを考える」については、図1の10枚の写真を一覧させ、その中から1枚を選ぶこととする。一覧ではそれぞれが縮小版となっており、それぞれの絵に触れると、拡大され細部まで確認できるような工夫をする。これにより、細部にこだわりを持つ自閉スペクトラム症の児童が自分の興味や関心に従い、確認をすることが可能となる。

「4. ワークシート」案は、図2に示した。まず、どの写真を選んだか、番号に○をつける。その上で、なぜ、その写真を選んだのか、理由を書き、その内容について発表をする。発表を聞く時に、ワークシートの下部に設けたメモ欄を用い、ワークシートに感想を書く際の手がかりとする。先に図2のワークシートで感想を書くことが予告できているため、メモを取る理由も明確になる。発表後、他の児童の発表を聞いた感想を、メモを参考にしながら、ワークシートに記入する。このように教材を使用することにより、一覧性が確保され、そこか

ら選ばせることにより、感じたことを言語化することにつなげることが可能となる。

この授業展開により、まず、「明示的な学習」(5. 7. 5. 7. 7のリズム)という強みを生かすことができる。また、31文字の短い文章であることから、「限定的な興味」を生かせると考える。さらに、この歌が秋の気配を感じる情景について写真を ICT の活用により提示することにより、「視覚的な情報の優位性」という強みを生かすことができると考える。加えて細部まで詳細に見ることができるよう ICT を活用し設計することにより、自閉スペクトラム症の児童の個別的な着眼点について、引き出すことが可能となる。この他にも、この教材を使用することにより、視覚的に他の児童の考えを知ることになり、自分の考えとの違いや共通性について理解することができる。そのため、自閉スペクトラム症が苦手とする共感を行うことができると考える。

4. まとめ

本稿では、風の音という聴覚情報と秋の到来による驚きの感情を、ICT を活用した視覚的な教材を用いた提案を行った。自閉スペクトラム症の児童の得意とする「明示的な学習」・「視覚的な情報の優位性」・「細部への注意」・「限定的な興味」に基づいた指導等を行うことにより、自閉スペクトラム症の児童、通常学級の児童がともに、『古今和歌集』169 番の歌の世界をともに学び、理解することができると考える。一方で、自閉スペクトラム症の児童は感情の共感性が乏しいとされる。その理由として、相手の感じていることと、自分の感じていることを同時に保持することが困難であるなどが挙げられている¹⁷⁾。共感を促すために図 2 のワークシートに他人の発言をメモし、さらに、ICT を活用した視覚教材により、相手の感じていることと自分の感じていることを同時に確認することが可能となると考えられる。そのため、このような教材による授業展開によって、小学校高学年、さらには高等学校へ向け、日本の伝統文化にさらに親しみ、知識と愛着を深めることができると考える。『古今集』の和歌を教材として利用することにより、教室内の他の人だけでなく、日本人として 1000 年以上も前の古人とも同じ感覚を伝統的に持っており、共感することができることを理解することにつながる。

和歌は、五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を言語化することが可能である。そのため、今回は、視覚を用いた教材開発であったが、聴覚を通して言語化することも可能となる。同じ単位には、秋について聴覚に特化した教材開発も可能となる歌が二首示されている。

(1) むしのねも のこりすくなに なりにけり よなよなかぜの さむくしなれば
良寛

現代語訳：虫の声を聴くことも残り少なくなってしまった。夜ごとに風が寒くなってきたので(冬がやってくるので)。

(2) 奥山に紅葉踏み分けなく鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき

古今集 秋上 215 猿丸太夫

現代語訳：山深いところで紅葉を踏み分けて鳴く鹿の声を聴くと、秋を悲しく感

じられる（ものさみしい声）。

これらの和歌については、虫の声、鹿の声を用意し¹⁸⁾、聴覚情報を用いて和歌の理解を深めることが可能であろう。秋の季節感とそれに伴う日本人の普遍的な感情についての共感性が育まれることが期待できると考える。

謝 辞

図1の1, 2, 9, 10の写真をご提供くださった川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科 西田裕明講師に心よりお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 文部科学省：学習指導要領第2章 各教科 第1節 国語：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm
- 2) 光村図書：小学校国語学習指導書，3下，光村図書，2020
- 3) 武久 康高：小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開，高知大学教育実践研究，(25)，125-137，2011
- 4) 同 注3
- 5) 赤木 雅宣：小学校における伝統的な言語文化の指導のあり方—古典への興味関心を高め、言語文化のよさを感じ取る授業を目指して—，ノートルダム清心女子大学紀要. 人間生活学・児童学・食品栄養学編，43(1)，14-24，2019
- 6) 永野 真：小学校における「古典に親しむ」授業づくり—音声による言語活動を生かした授業の展開—，神奈川県立総合教育センター長期研究員研究報告 8，1-6，2010
- 7) 田中 良英，堀田 幸義，津田 智史：小学校社会科教育における歴史的思考力の涵養に向けて—国語科教育との連携の可能性から探る—，宮城教育大学紀要，54，79-105，2019
- 8) 宮内庁 歌会始：<https://www.kunaicho.go.jp/culture/utakai/utakai.html>
- 9) 文部科学省：第4章 指導計画作成上の配慮事項，小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語篇，2018
- 10) 文部科学省：今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）：https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361204.htm
- 11) 小貫 悟：学びの過程での困難さに対する指導の工夫—ユニバーサルデザインの視点からの授業改善—，小学校国語学習指導書創設編，光村図書，2020
- 12) 武久 康高：小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開(2)小学校実践編，高知大学教育実践研究，(26)，67-78，2012
- 13) 工藤 尚子，高木 まさき：光村の国語 わかる，伝わる，古典のこころ② 短歌・俳句・近代詩・監視を楽しむ 18のアイデア，光村教育図書，2009
- 14) 嶋中 道則他 74名：精選言語文化，5 和歌，東京書籍，2021
- 15) ゲーリー・メジボフ，ビクトリア・シェア，エリック・ショプラー：TEACCH とは何か—自閉症スペクトラム障害の人へのトータル・アプローチ—，エンパワメント研究所，2007
- 16) 御手洗 靖大：教室で和歌を読む 詠む，麻布中学校・高等学校紀要，54-65，2023
- 17) 同注12
- 18) 『秋の短歌4首』良寛／藤原敏行／猿丸太夫／安倍仲麿：<https://www.youtube.com/watch?v=hK6Jztm3yEQ>

(2023年9月16日 受理)

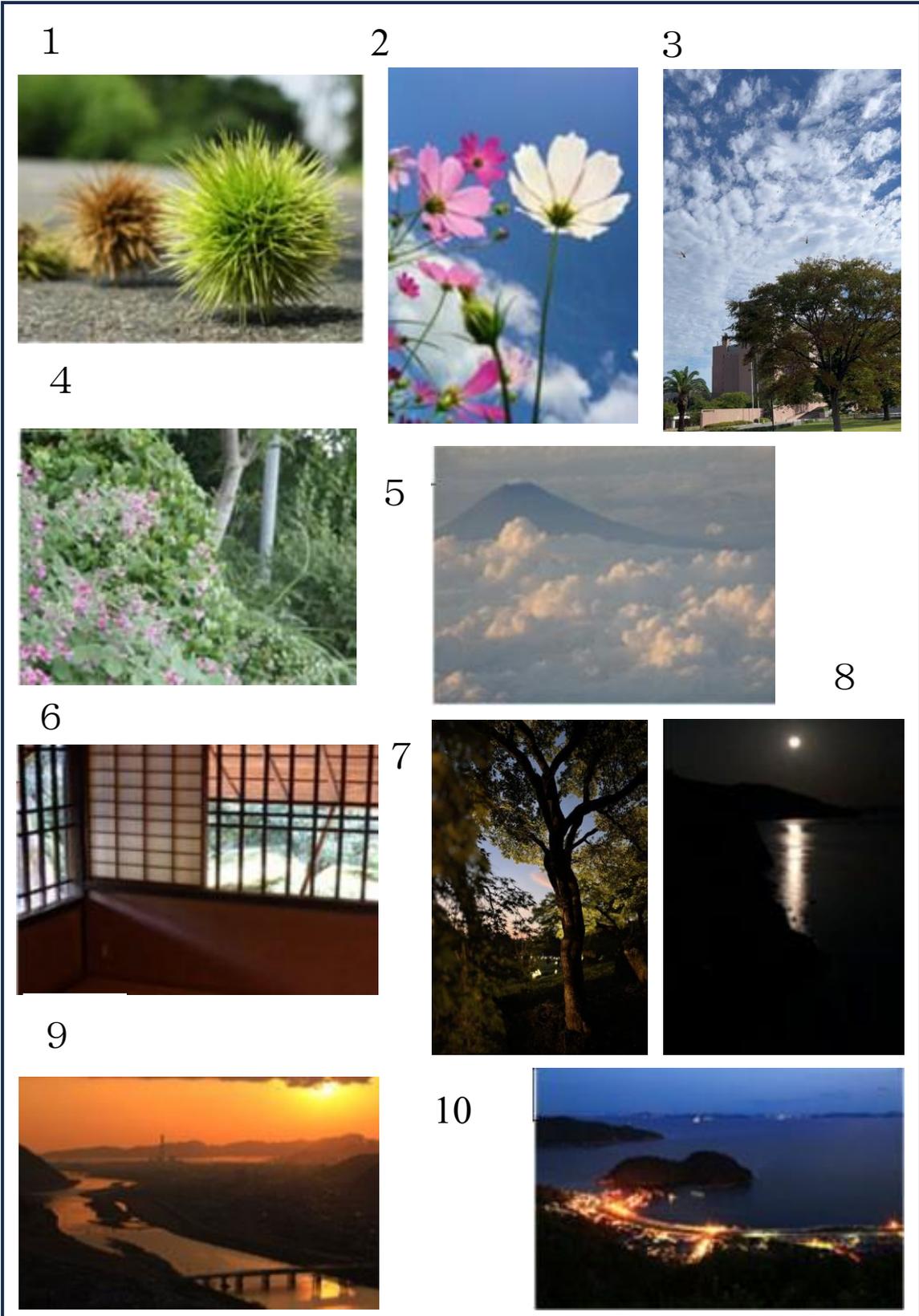


図1 初秋の画像

秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる

一、どの写真が、秋が来たことについて、風の音でおどろく場面だと思いますか。
数字に○を入れてください。

1. 2. 3. 4. 5. 6 7. 8 9. 10

二、どうして、この写真を選びましたか。
理由を書いてください。

※みんなの発表を聞くとき
に、気になったことをメモ
して「三」にしよう。あとで、
「三」に、どう思ったかを
書いてみましょう。

三、みんなの発表を聞いた後で答えてください。
みんなの発表を聞いて、どう思いましたか。